

ことば・コトバ・言葉

◆同音異義語

漢字には、同じ音をもつものが多くあります。これを同音異字とい
います。

例 シン……心配 信用 身長 真実

それらの漢字を組み合わせてできている熟語には、同じ音で意味の
ちがう語が多くあります。これを同音異義語といいます。

例 シンジョウ
心情 ↓ 心の中で思っていること。
信条 ↓ 大切なことと信じて、守っていること。
身上 ↓ その人に関わること。その人本来のよさ。

○覚えておきたい同音異義語

カイシン 人のやさしさにふれ、改心した。

キカン 街の交通機関を調べる。
期間限定の商品を買う。

コジン 個人戦で決勝まで勝ち進む。
故人をしのぶ。

ツイキユウ 理想を追求する。
責任を追及する。

メイアン とびきりの名案がうかんだ。
真理を追及する。

わずかなミスが試合の明暗を分けた。



漢字を書こう。

識
言
19
シキ

(1) イシキを失う。

承
手
8
シヨウ
うけたまわる*

(2) その話はシヨウチした。

貸
貝
12
タイ*
かす

(3) 本を友達にかす。

任
イ
6
ニン
まかせ
まかす

(4) セキニンははたす。

綿
糸
14
メン
わた

(5) タンポポのワタゲ。

預
頁
13
ヨ
あずける
あずかる

(6) 銀行にヨキンする。



☆ 文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あたりは、もううすくらくらくなっていました。よだかは巢から飛び出しました。雲が意地悪く光って、低くたれています。よだかはまるで雲とすれすれになって、音なくそらを飛びまわりました。

それからにわかによだかは口を大きくひらいて、はねをまっすぐに張って、まるで矢のようにそらをよこぎりまわりました。小さな羽虫が幾ひきも幾ひきもそののどにはいりました。

からだがつちにつくかつかないうちに、よだかはひらりとまたそらへはねあがりました。もう雲はねずみ色になり、向こうの山には山焼けの火がまっ赤です。

よだかが思い切って飛ぶときは、そらがまるで二つに切れたように思われます。一ぴきのかぶと虫が、よだかののどにはいつて、ひどくもがきました。よだかはすぐそれをのみこみましたが、その時何だかせなかがぞっとしたように思いました。

雲はもうまっくろく、東の方だけ山焼けの火が赤くうつって、恐ろしいようです。よだかはむねがつかえたように思いながら、またそらへのぼりました。

また一ぴきのかぶと虫が、よだかののどに、はいりました。そしてまるでよだかののどをひっかいてばたばたしました。よだかはそれを無理にのみこんでしまいました。その時、急に胸がどきどきとして、よだかは大声をあげて泣き出しました。泣きながらぐるぐるぐるぐるそらをめぐったのです。

(ああ、かぶと虫や、たくさんの羽虫が、毎晩僕に殺される。そしてそのただ一つの僕がこんどはたかに殺される。それがこんなにつらい

のだ。ああ、つらい、つらい。僕はもう虫をたべないで飢えて死のう。いやその前にもうたかが僕を殺すだろう。いや、その前に、僕は遠く25の遠くのそらの向こうに行ってしまうおう。)

山焼けの火は、だんだん水のように流れてひろがり、雲も赤く燃えているようです。

よだかはまっすぐに、弟のかわせみの所へ飛んで行きました。きれいなかわせみも、ちょうど起きて遠くの山火事を見ていた所でした。そしてよだかの降りて来たのを見ていいました。

「兄さん。今晩は。何か急のご用ですか。」

「いや、僕は今度遠い所へ行くからね、その前ちょっとお前にあいきたよ。」

「兄さん。行っちゃいけませんよ。はちすずめもあんな遠くにいるんですし、僕ひとりぼっちになってしまっじゃありませんか。」

「それはね。どうも仕方ないのだ。もう今日は何もいわないでくれ。」

そしてお前もね、どうしてもとらなければならぬ時のほかはいたずらにお魚をとったりしないようにしてくれ。ね、さよなら。」

「兄さん。どうしたんです。まあもうちょっとお待ちなさい。」

「いや、いつまでいてもおんなじだ。はちすずめへ、あとでよろしくいってやってくれ。さよなら。もうあわないよ。さよなら。」

よだかは泣きながら自分のお家へ帰って参りました。みじかい夏の夜はもうあけかかっていました。

(宮沢賢治『よだかの星』)

問一

線①「よだかは口を大きくひらいて」とありますが、何のためによだかは口をひらくのですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

④		③	
気持ち	行動	気持ち	行動
した。	虫を、 のみにこんだ。	ひどく 虫を、 のみにこんだ。	ひどく 虫を、 のみにこんだ。
	よだかののどをひっかいて		
		ように思った。	

ア 速く飛ぶため。 イ こきゅうをするため。
ウ 大声で泣くため。 エ えさをとるため。

問二 線②「そらがまるで二つに切れたように思われます」とありますが、これはどんなことをたとえた表現ですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア よだかの羽ばたく音のするどさ
イ よだかの羽ばたくのびやかさ
ウ よだかの飛ぶ速さ
エ よだかの飛ぶ高さ

問三 線③「一ぴきのかぶと虫が、よだかののどにはいったとき、」線④「また一ぴきのかぶと虫が、よだかののどにはいったとき、」よだかののどにひっかかれたのが、痛くて痛くてたまらない。文中から書きぬきなさい。

問四 線⑤「泣きながらぐるぐるぐるをめぐったのです」とありますが、このときのよだかの気持ちとしてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 羽虫やかぶと虫しか食べることができないのが情けなく、残念だ。
イ 生きていくために、他の生き物を殺さなければならぬことがつらい。
ウ 飢えて死ぬのならまだしも、たかに殺されるというのは、はらが立ってしかたがない。
エ かぶと虫にひっかかれたのが、痛くて痛くてたまらない。

問五 線⑥「まあもうちょっとお待ちなさい」といったときのかわせみの気持ちを説明した次の文の□□にあてはまることを、文中から書きぬきなさい。

□□□□□□□□□□
にはなりたくない。

問六 線⑦「いつまでもおんなじだ」とはどういうことですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア どんなにはなれていても、ずっと兄弟は兄弟だということ
イ たとえ近くにとどまったとしても、もうあうつもりはないということ
ウ かわせみの家においても、結局はたかに殺されるということ
エ いくら引きとめられても、遠くに行く気は変わらないということ

ことば・コトバ・言葉

1 次の漢字を組み合わせて同音異義語を二つずつ作りなさい。(同じ漢字を二度使ってもよい。)

好・協・放・医・力・解・意・強・校・開

(1) コウイ

(2) カイホウ

(3) キョウリョク

2 次の線部のかたかなの漢字として正しい方に○をつけなさい。

(1) かれはボランテイア活動にカンシン ア 関心
イ 感心 をもっている。


(2) ぼくはキカイ ア 機会
イ 機械 をいじるのが大好きだ。

(3) 夏休みのカダイ ア 過大
イ 課題 に取り組む。

3 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。

(1) キシヤに乗って旅に出る。

(2) わたしのゆめは新聞キシヤになることです。

 ねる前に覚えた四字熟語がバラバラになって夢に出てきたよ。覚えた四字じゆく語は何だろう？ すべて答えよう。

三 千 変
 寒 食 化 温
 肉 強 有 步
 実 名 鳥 無
 二 月 弱
 日 進 一 石

